



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月14日

上場会社名 株式会社モスフードサービス 上場取引所 東  
 コード番号 8153 URL <https://www.mos.co.jp/company/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 栄輔  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 川越 勉 (TEL) 03-5487-7371  
 経営サポート本部長  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	64,197	8.6	925	△70.5	1,168	△64.4	911	△70.5
2022年3月期第3四半期	59,102	10.3	3,134	221.5	3,279	214.5	3,089	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 1,849百万円(△47.0%) 2022年3月期第3四半期 3,489百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	29.55	—
2022年3月期第3四半期	100.19	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	72,806	49,512	67.7
2022年3月期	69,602	48,576	69.4

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 49,259百万円 2022年3月期 48,323百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	12.00	—	16.00	28.00
2023年3月期	—	14.00	—		
2023年3月期(予想)				14.00	28.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	85,000	8.4	1,500	△56.8	1,700	△53.2	1,100	△67.8	35.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 -社(社名) - 、除外 -社(社名) -

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	32,009,910株	2022年3月期	32,009,910株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	1,171,556株	2022年3月期	1,174,349株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	30,837,072株	2022年3月期3Q	30,833,951株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、2022年3月末にまん延防止等重点措置が解除され、緩やかな回復の動きが見られたものの、ウクライナ情勢の長期化等に伴う世界的な原材料価格やエネルギー価格の高騰に加え、急速な円安による調達費用の上昇や物流費の高騰等、依然として先行きの不透明な状況が続いております。

このような状況下のもと、当社グループでは、全社ミッションである「世界で認められる日本のおいしさとおもてなしを確立する」の実現を目指し、「Challenge & Support」をスローガンに、中期経営計画（2022-2024）を4月より開始いたしました。

この中期経営計画では、業績目標として2024年度に売上高1,000億円、営業利益50億円、親会社株主に帰属する当期純利益35億円を設定いたしました。この計画を達成するために基幹事業である国内モスバーガー事業で積極的な投資を行い収益力の向上を目指します。前中期経営計画では、不採算店舗を閉店する等、経営効率の向上に努めてまいりましたが、今中期経営計画から店舗数の純増を目指します。また、海外事業では、成長市場に経営資源を集中させるため、既存国の成長余地を見極めて戦略を策定し資源の最適配分を行っております。

なお、当社では、ESGの観点から当社グループのマテリアリティ（重要課題）を①健康に寄与する食の提供、②地域に密着した店舗運営、③働き方改革、④環境負荷の低減、の4つに定め、事業活動を通じて社会に向けた価値創造に取り組んでおります。

このような取り組みの結果、売上高は増収となりましたが、想定を超える仕入れ価格の高騰や販管費の増加により営業利益は減益となりました。

当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高が641億97百万円（前年同四半期比8.6%増）、営業利益9億25百万円（同70.5%減）、経常利益11億68百万円（同64.4%減）となり、最終損益は主に新型コロナウイルス感染症に係る助成金収入4億38百万円、減損損失1億5百万円、税金費用5億99百万円等を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益9億11百万円（同70.5%減）となりました。

引き続き内部努力を継続するとともに、価格戦略等を含め、コスト構造の抜本的な改善に取り組み、業績の回復に努めてまいります。



セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

## &lt;国内モスバーガー事業&gt;

国内モスバーガー事業では、お客様のニーズに合わせた商品、マーケティング展開に加え、お客様との接点の量と質を徹底的に強化するため、積極的な出店や地域に密着した店舗作りを推進しております。

## ① 商品・マーケティング施策

お客様それぞれに合った、モスらしい、わくわくする感動体験をお届けすることをテーマに取り組んでおります。主として、以下の施策を展開いたしました。

秋キャンペーン (9/14～11/15)	導入商品	・月見フォカッチャ ・月見テリヤキバーガー
	トピックス	「月見フォカッチャ」は、月見商戦初参入という話題もあり、当初計画を上回る販売で早期終売となりましたが、「モスのお月見、第二弾」として「月見テリヤキバーガー」を投入し、好評をいただきました。また、仮想空間への店舗出店による製造体験等、幅広い年齢層への認知向上に寄与いたしました。
冬キャンペーン (11/16～ )	導入商品	・とびきりアボカドコロッケ ・一頭買い 黒毛和牛バーガー ～特製テリヤキ ソース～
	トピックス	「アボカドコロッケ」、国産黒毛和牛を使用した「一頭買い 黒毛和牛バーガー」を年末年始のハレの日需要に対応した商品として展開し、多くの支持をいただきました。加えて、人気タレントの起用により若年層の来店も喚起いたしました。
地域限定商品	導入商品	9/30～ 真鯛カツく愛媛県愛南町> (西日本エリア) 10/3～ なりもす・ダブルバーガー (東京エリア) 10/5～ オキナワBBQバーガー (沖縄エリア)
	トピックス	日本で生まれたハンバーガーチェーンとして、日本各地の食材や特色を活かした魅力ある商品を、エリア限定商品として展開いたしました。

## ② 店舗施策

郊外型のドライブスルーや、今まで未開拓であった首都圏周辺の住宅地近接のコンパクトな物件等、多様な立地に適応した店舗づくりを推進することで、年間50店舗の出店を目指しております。加えて、将来の人手不足を見据えて、フルセルフレジやワンタッチコール等、IT技術を活用した店舗づくりも推進してまいります。

11月にはモスバーガーでは出店困難な超一等地にある狭小物件で出店可能な新業態として、チーズバーガー専門店「mosh Grab'nGo」(モッシュグラブアンドゴー)をオープンいたしました。

## 2022年度出退店実績

出店	退店	店舗数	増減
28	9	1,270	+19

(2022年3月末比)

## ③ デジタル技術の活用

デジタル技術を活用しCX(お客様の体験価値)とEX(社員や店舗メンバーの働きがい)の向上を目指しております。

11月にモスバーガー大崎店、原宿表参道店に続く3店舗目として大濠公園前店に分身ロボット「OriHime」(オリヒメ)を期間限定で実験導入いたしました。「OriHime」は、子育てや介護、身体障がい等で外出困難な人の分身として、店舗勤務を可能にいたします。今後も、時代にあったモスバーガーらしいホスピタリティの形を追求し、人手不足を補うためにテクノロジーを活用した研究を続けてまいります。

## ④ 新たな事業展開

モスブランドを活用した新たな事業を展開するマーチャンダイジング事業では「モス オンラインショップ～Life with MOS～」を通じて、安全・安心・健康・おいしさに加え、環境に配慮したライフスタイルフード、ライフスタイルアイテムを提案しております。オンライン限定のライスバーガー等の食品のみならず、自然や環境を意識したオリジナルのライフスタイルアイテムも販売しております。また、OisixとコラボレーションしたOisixサイト専用商品「旨み重なる濃厚ボロネーゼ」やFire-KingとコラボレーションしたFire-King Japan公式オンラインストア限定商品「モスバーガー50周年記念テーブルウェア」等、ブランドを活用した他社とのコラボレーションもご好評をいただいております。今後も取り組みを拡大し、ブランドの価値向上とともに、

収益事業へと育ててまいります。

以上の事業活動の結果、国内モスバーガー事業の売上高は506億93百万円(前年同四半期比5.4%増)となりましたが、セグメント利益については原材料費の高騰や急速な円安による調達費用の増加で原価率が上昇したことに加えて、売上増加に伴う人件費・運賃等の増加、売上拡大のための販売促進費の積極的な投下、宅配手数料の増加等により24億20百万円(前年同四半期比46.3%減)となりました。

#### <海外事業>

海外事業では、定番商品等で日本の食文化は大切にしながら、現地の嗜好を取り入れたローカライズ商品を販売し、地元の人にも愛される、地域に根差した店舗展開を進めております。

なお、海外事業に属する関係会社の当第3四半期連結会計期間は2022年7月から9月であるため、同期間の情報を記載しております。

#### ① 主要な連結子会社（香港、シンガポール、魔術食品工業（食品製造））

香港では新たな販路として「冷凍モスライスバーガー」4種を香港で人気のDonDonDonkiで販売いたしました。「モスバーガー＝日本＝お米」を発信することにより、「日本発祥のハンバーガーチェーンとしてのブランド確立」を目指しております。

シンガポールでは、1994年から続いている小売店の接客品質向上の奨励を目的としたEXCELLENT SERVICE AWARDに初めてエントリーし、Silver Awardを受賞いたしました。社員のモチベーションにつながるAwardへ参加することにより、ブランド価値向上につなげてまいります。

海外店舗の主要な食品を製造しております台湾の連結子会社、魔術食品工業では、モスバーガー店舗の売上に比例して売上は回復傾向にありますが、原材料価格の高騰により減益となっております。

#### ② 主要な関連会社（台湾）

台湾では、新型コロナウイルスの感染者数も落ち着きはじめ、政府の規制も緩和されてきていることから、観光地での消費力も少しずつ回復しております。このような状況下のもと、海外旅行先人気1位の北海道を軸にしたプロモーションを実施したことにより、売上及び客数増に寄与しております。

海外事業の店舗数は、9月末時点では減少しておりますが、コロナ禍による商圈の変化に合わせ、積極的にスクラップ&ビルドを行った結果であり、出店を推進する方針に変更はございません。

(2022年度9月末時点、増減：2021年12月末比)

国・地域名	台湾	シンガポール	香港	タイ	インドネシア
店舗数	300	49	42	25	2
増減数	△2	△5	+3	+4	0
国・地域名	中国	オーストラリア	韓国	フィリピン	合計
店舗数	7	4	14	6	449
増減数	△1	0	0	0	△1

以上の事業活動の結果、海外事業の売上高は114億60百万円(前年同四半期比24.2%増)となりましたが、原材料費の高騰による調達費用の増加で原価率が上昇したことに加え、人件費等の経費の増加により、セグメント損失は1億57百万円(前年同四半期はセグメント利益2億4百万円)となりました。

#### <その他飲食事業>

その他飲食事業は、まん延防止等重点措置が全面解除されたことにより、対前年比は回復傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染症発生前までの回復には至っておりません。引き続き、商品力の強化、サービス品質の向上、テイクアウトやデリバリーの拡大を図り、収益力の改善を進めております。

事業	事業の内容	店舗数
マザーリーフ	スリランカの茶園直送の紅茶とアメリカンワッフルを提供する紅茶専門店	13
モスト	モスバーガーとミスタードーナツとのコラボレーションショップ	1
モスプレミアム	グルメバーガーとお酒が楽しめるフルサービスレストラン	2
ミアクッチーナ	フードコート向けパスタ専門店	2
カフェ 山と海と太陽	バリエーション豊かなドリンクとハンバーガーを提供するカフェ店舗	1
あえん	四季折々の旬菜料理を提供する和風レストラン	5
シェフズブイ	旬の野菜を主役にしたベジタブルレストラン	1
合計		25

以上の事業活動の結果、その他飲食事業の売上高は13億56百万円(前年同四半期比21.7%増)、セグメント損失は1億49百万円(前年同四半期比1億3百万円の損失減)となりました。

#### <その他の事業>

連結子会社の株式会社エム・エイチ・エスは衛生、株式会社モスクレジットは金融・保険・設備レンタル、株式会社モスシャインはグループ内業務のアウトソーシング等により、主に国内モスバーガー事業やその他飲食事業を支援しております。

これらによるその他の事業の売上高は6億87百万円(前年同四半期比5.4%増)となり、レンタル資産の減価償却費の一時的な減少等により、セグメント利益は5億41百万円(前年同四半期比148.3%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、以下のとおりであります。

### (資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度に比べ32億4百万円増加し、728億6百万円となりました。流動資産は前連結会計年度に比べ27億61百万円増加し、固定資産は4億42百万円増加しております。流動資産が増加した主な理由は、賞与及び配当の支払いや仕入の増加等の季節的な要因によって現金及び預金が増加した一方で、季節変動により売上債権、棚卸資産が増加したことによるものであります。固定資産が増加した主な理由は、出店等により有形固定資産が増加したことによるものであります。

### (負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度に比べ22億67百万円増加し、232億94百万円となりました。この増加の主な理由は、未払法人税等が減少した一方で、クリスマス商戦と年末年始に備えた仕入に伴い仕入債務が増加したこと、季節変動により未払金が増加したことによるものであります。

### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度に比べ9億36百万円増加し、495億12百万円となりました。その結果、自己資本比率は前連結会計年度末69.4%から当第3四半期連結会計期間末は67.7%と1.7%減少しております。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年11月11日発表の通期連結業績予想から変更はございません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	19,757	16,123
受取手形、売掛金及び契約資産	5,518	7,592
有価証券	932	530
商品及び製品	3,377	5,734
原材料及び貯蔵品	379	563
その他	2,950	5,134
貸倒引当金	△8	△8
流動資産合計	32,908	35,669
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	17,373	20,924
減価償却累計額	△9,822	△12,956
建物及び構築物(純額)	7,551	7,968
機械装置及び運搬具	290	305
減価償却累計額	△163	△219
機械装置及び運搬具(純額)	126	86
工具、器具及び備品	9,300	9,764
減価償却累計額	△7,006	△7,513
工具、器具及び備品(純額)	2,293	2,251
土地	1,019	1,040
建設仮勘定	147	255
有形固定資産合計	11,138	11,602
無形固定資産		
その他	2,163	2,275
無形固定資産合計	2,163	2,275
投資その他の資産		
投資有価証券	14,031	13,507
長期貸付金	1,462	1,477
差入保証金	4,735	5,005
繰延税金資産	447	340
その他	2,820	3,001
貸倒引当金	△58	△56
投資損失引当金	△44	△16
投資その他の資産合計	23,393	23,259
固定資産合計	36,694	37,137
資産合計	69,602	72,806



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,139	6,931
短期借入金	—	400
リース債務	1,729	1,965
未払金	4,101	5,451
未払法人税等	1,130	216
賞与引当金	515	257
ポイント引当金	83	79
資産除去債務	57	63
その他	2,868	2,644
流動負債合計	15,625	18,011
固定負債		
長期借入金	38	37
リース債務	2,226	1,964
役員株式給付引当金	—	3
株式給付引当金	185	204
退職給付に係る負債	405	431
資産除去債務	815	878
その他	1,729	1,762
固定負債合計	5,400	5,282
負債合計	21,026	23,294
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	11,412	11,412
資本剰余金	11,023	11,089
利益剰余金	25,726	25,699
自己株式	△1,747	△1,778
株主資本合計	46,414	46,422
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	959	844
為替換算調整勘定	932	1,987
退職給付に係る調整累計額	17	4
その他の包括利益累計額合計	1,908	2,836
非支配株主持分	252	253
純資産合計	48,576	49,512
負債純資産合計	69,602	72,806

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	59,102	64,197
売上原価	30,639	35,071
売上総利益	28,462	29,125
販売費及び一般管理費	25,327	28,199
営業利益	3,134	925
営業外収益		
受取利息	70	63
受取配当金	48	80
設備賃貸料	176	181
立退料収入	—	102
雑収入	218	190
営業外収益合計	514	618
営業外費用		
支払利息	89	82
設備賃貸費用	126	144
持分法による投資損失	69	29
雑支出	83	120
営業外費用合計	369	375
経常利益	3,279	1,168
特別利益		
固定資産売却益	20	118
投資有価証券売却益	26	1
投資損失引当金戻入額	19	—
持分変動利益	2	—
助成金収入	1,031	438
特別利益合計	1,100	558
特別損失		
固定資産売却損	2	0
固定資産除却損	69	76
減損損失	123	105
投資有価証券評価損	12	36
投資有価証券売却損	—	0
投資損失引当金繰入額	—	8
持分変動損失	—	1
特別損失合計	208	229
税金等調整前四半期純利益	4,171	1,497
法人税、住民税及び事業税	1,085	489
法人税等調整額	△18	109
法人税等合計	1,067	599
四半期純利益	3,104	897
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	14	△13
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,089	911

## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	3,104	897
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△213	42
為替換算調整勘定	286	785
退職給付に係る調整額	8	△12
持分法適用会社に対する持分相当額	304	137
その他の包括利益合計	385	951
四半期包括利益	3,489	1,849
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,456	1,839
非支配株主に係る四半期包括利益	33	10

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症に関する主要な仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内 モスバーガー 事業	海外事業	その他飲食 事業	その他の 事業	計		
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	48,111	9,224	1,114	651	59,102	—	59,102
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	65	2	—	1,039	1,107	△1,107	—
計	48,176	9,227	1,114	1,691	60,209	△1,107	59,102
セグメント利益又は損失(△)	4,504	204	△252	218	4,674	△1,540	3,134

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,540百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,508百万円を含んでおります。全社費用の主なものは、提出会社の経営企画・経理部門等の経営管理に係る部門の費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内 モスバーガー 事業	海外事業	その他飲食 事業	その他の 事業	計		
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	50,693	11,460	1,356	687	64,197	—	64,197
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	66	21	55	1,028	1,171	△1,171	—
計	50,759	11,482	1,411	1,715	65,368	△1,171	64,197
セグメント利益又は損失(△)	2,420	△157	△149	541	2,655	△1,729	925

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,729百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,693百万円を含んでおります。全社費用の主なものは、提出会社の経営企画・経理部門等の経営管理に係る部門の費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。